2025（令和7）年度 中学校入試に向けて

結果分析と学習のアドバイス

雲雀丘学園中学校

目　次

■令和６年度中学校入試

A日程午前　　算 数・国 語・理 科・社 会

A日程午後　　算 数・国 語

B日程　　算 数・国 語・理 科・英 語

■令和６年度 中学校入試

A 日程午前

算 数

2024 年度　中学入試Ａ日程午前分析・算数

■全体講評

出題形式は例年と同様である。基本的な問題は正答率が高いが，大問２以降の最後の問題の正答率が低く，差がついたと思われる。大問２(5)は図がイメージできれば決して難しくないのだが，正答率が突出して低かった。

■出題主旨

１．　基本的な計算力を問う問題。この他の大問に比べ正答率が高く，全問正解して欲しい。

２．　小問集合。様々な単元から出題し，様々な内容の基礎がしっかりしているか問う。

３．　規則性の問題。

４．　食塩水の問題。食塩水，食塩水の重さは比で与えており，やや難しい。

５．　２人の会話文を読み，状況を把握し読み解く力を試した。「巡回数」がテーマである。
興味がある人は調べてみて欲しい。

６．　空間図形の問題。立方体の切断に関する問題だが，どのような図になるかがイメージできるか，応用力を問うた。

■対策への助言

算数の学習では，知識・思考力と正確な計算力をつけることが必要です。大問１は計算問題，大問２は小問集合，大問３以降は思考力を要する問題という構成は変わっていません。計算問題は他の大問に比べ正答率が高く，確実に正解した上で他の問題に取り組みましょう。様々な分野から出題されますので，日頃から「なぜそうなるのか」を理解した上で，確実な基礎力を身につけておきましょう。

■問題分析

2 人の話はつづきます。

生徒　ところで，142857×8 からは142857の順がくずれない数にならないのですか。

先生　考えてみましょう。142857×8＝1142856 です。

生徒　1→4→2→8→5→7 の順にはなっていないです。

先生　そうですね。ここで，次の「操作」を考えてみましょう。

「操作」　**一番大きい位の数を取り除き，その数を一番小さい位の数にたす**

つまりこの場合，一番大きい位の数（一番左にある数）である 1 を取り除き，一番小さい位の数（一番右にある数）である 6 に 1 を足すと…

生徒　あっ 142857 になりました。すごい！

先生　では理由を考えてみましょうか。142857×7＝999999 でしたね。

999999＝1000000－1 ですから，

$$\begin{aligned}142857\times8&=142857\times(1+7)\\&=142857\times1+142857\times7\\&=142857+1000000-1\\&=1142856\end{aligned}$$

ですね。したがって，

1142856－1000000＋1＝142857 ですから，1142856 に「操作」をすることによって 142857 になりましたね。

生徒　うーん，難しいのでもう少し考えてみます。

(3)　142857×9 に「操作」をすると 142857 の順がくずれない数になりますか。なるかどうかを答え，その理由を先生の理由の説明にならってかきなさい。

考え方と解き方

142857 の順がくずれない数になる。

（理由）

$$\begin{aligned}142857\times9&=142857\times(2+7)\\&=142857\times2+142857\times7\\&=285714+1000000-1\\&=1285713\end{aligned}$$

だから，1285713 に「操作」をすると 285714 になるので，142857×9 に「操作」をすると 142857 の順がくずれない数になる。

問題文に「先生の理由にならって」と指示があります。誘導にもなっていますので，うまく誘導に乗ることが大切です。

■令和６年度 中学校入試

A 日程午前

国 語

令和六(2024)年度　中学入試（Ａ日程午前）分析・国語

■全体講評

説明的文章、文学的文章、漢字の大問３題の出題であった。

説明的文章は、森林では木々の強い者、弱い者にもそれぞれに助け合いが行われているということをわかりやすくまとめてある文章であった。書きぬきの問題では、広範囲からの丁寧な読みも求められた。文学的文章では登場人物は多いものの、人間関係の把握をした上で二つの文章から海を舞台に「ジイ」に関わる者、特に前半の主人公の成長を読む作品であった。全体では、本文のことばを使用しての記述問題で20字や30字で書く設問を出題しており、単なる書きぬきではなく、字数内にまとめる力が必要であった。

■出題趣旨・講評

大問１【説明的文章】ペーター・ヴォールレーベン著・長谷川圭訳『樹木たちの知られざる生活　森林管理官が聴いた森の声』

ブナ林のように、同じ種類の樹木で成り立つ森林では、栄養を分け与える社会福祉システムがあり、根などを通して樹木間で互いに助け合いがあることをわかりやすく説明し、ひいては人間社会にも言及しようとする文章であった。それぞれの問いの傍線部だけでなく、筆者が全体で言おうとしていることにまでよく読んだ上で正解を導いてほしい。

大問２【文学的文章】藤岡陽子『海とジイ』

母の千佳の視点で書かれた主人公優生が、「ジイ」である清次との交流から成長しようとしていく話である。途中に出てくる竜生の話がオムニバスになっており、全体を通して海という広大な自然の力にも助けられ、優生が一歩踏み出すきっかけを情景描写などから読み取る必要があった。ここでも傍線部だけで判断することのないよう、しっかりと全体を読むことが求められた。直接的な表現はなくとも、登場人物たちの心情をしっかり読み取ってほしい。

大問３【漢字】

書き取り8問。日ごろからトメ・ハネなども意識して漢字を書くようにし、漢字学習を通して慣用句のようなことばの語彙力も高めてほしい。

■対策への助言

短絡的に傍線部だけで判断せず、話全体をしっかりと読んだうえで選択肢を吟味するようにしてほしい。辞書的なことばの意味だけでなく、その文章の流れに合うものを選ばないといけない。どんな話題であっても記述解答においては、その内容だけでなく文字の正確さも求められるものである。普段から様々な文章に触れて、漢字を用いて丁寧な字で答えを作れるように練習しておいてほしい。

■問題分析（本文は抜粋してあります）

私自身、⑤この助け合いを体験したことがある。林業を始めて間もないころ、私は若いブナの木に〝環状剥皮〟を施した。地上一メートルのところでミキのまわりの樹皮をぐるりとはがすのだ。そうすると木は枯れてしまう。これは間伐法の一つで、木を切るかわりに枯れさせて、枯死木として森に残すのだ。枯死木は葉を失うので、倒さなくても隣にある生きた木のスペースが増える、という算段だ。皮をはがれた木が死ぬまでには数年かかる。残酷な話だと思っただろうか？　私もそう思う。だから、もう二度とするつもりはない。

樹皮をはがれたブナたちは必死に生きようとした。それどころか、現在まで枯れずに生きつづけた木もある。⑥想像もできなかったことだ。樹皮がなければ葉でつくられた糖分が根に届かないからだ。本来なら、根に糖分が届かなくなった木は飢え死にし、水を吸い上げるのをやめ、枝葉に水分がなくなり枯れてしまうはずだ。それなのに、剝皮のあとも多少なりとも生長を続けた木がたくさんあった。

今の私にはその理由がわかる。まわりの木の援助によって生きつづけることができたのだ。地中のネットワークを通じて、栄養を分け合っていたのだろう。はがれた皮を再生することに成功した木も少なからずあった。

問八　――線部⑥「想像もできなかったことだ」とありますが、どのようなことが想像できなかったのですか。本文のことばを使って三十字以内で答えなさい。

（　、　。　「　」は字数に数えます。）

【解答例】

問八　樹皮をはがされても、現在まで生き続けた木があったこと。

【解　説】

傍線部の文章を含む段落の始まりには「樹皮をはがれたブナたちは必死に生きようとした。それどころか、現在まで枯れずに生き続けた木もある。」とあるのが解答作りの根幹部分である。なぜ「樹皮をはが」す必要があったのか、はその前の段落に「環状剥皮」のことが書かれてあり、樹皮をはがすことで木を切らずとも枯れさせれば木が死ぬことに言及がある。よって、樹皮をはがせば死ぬと思っていたのに、そうはならずに「現在まで」生きつづけた木があったことが想像できなかったということを説明する問題。字数制限の中で、「どのようなこと」と問われているので「～こと。」としてまとめる。

■令和６年度 中学校入試

A 日程午前

理 科

2024年度　中学入試A日程　分析・理科

■全体講評

例年通り各分野のバランスを考えて，生物，物理，化学，地学の４分野から均等配点で出題しました。難易度や問題数も各分野で偏ることがないようにしています。基本的な知識問題だけでなく，実験内容の理解とその結果の整理，与えられた文章・情報の正しい理解など，科学を扱ううえで必要とされる基礎力を問うことに重きをおいて作問しています。

各分野の正答率を比べると，生物分野において，リード文をよく読まないと解けない問題であったため，やや得点率が低かったです。動物の体のつくりを理解していれば，あとは考え方に違いはありません。なぜそのような答えになるのか，日頃から一問一答形式で覚えるのではなく，図などを用いて理解する訓練が必要です。これは，生物分野に限らず，理科全体に言えることですので，普段から意識しながら解いていきましょう。

■出題趣旨・講評

問題番号	項　目	設　　問
1	動物の体のつくり	災害時に活躍するレスキューロボットと動物のからだの構造を関連付けて出題しました。 全体的にはよく出来ていましたが、情報伝達の流れについての計算問題の正答率が低かったです。また、問題文を最後まで読まずに解答していると思われる答案が多く見られました。
2	水溶液の濃さと温度によるとける量の違い	食塩とホウ酸の温度によってとける量の違いに関して、グラフを与えて出題しました。 全体的に基本的な計算問題の正答率は高かったのですが，条件を整理して問う問題では正答率が低くなりました。グラフに関しては正しく読解できていました。
3	月	月の満ち欠けや地球との違いについて出題しました。 全体的にはよく出来ていましたが、見える月の各時刻に関する問題と月の「海」「月」の用語問題では正答率が低かったです。
4	ばねとてこ	おもりの重さに対するばねの長さのグラフから，ばねののびとおもりの重さの関係を読み取る問題を出題しました。 全体的には良く出来ていました。ほとんどの受験生がばねののびとおもりの重さに比例関係があることを理解しているようですが，ばねの接続やおもりのぶら下げ方に色々なパターンがあったため，思考力が相当必要でした。このため，後半の正答率が若干下がる結果となりました。

■問題分析

1　さまざまな自然災害によって人々の安全やくらしには大きな影響(えいきょう)が出ます。災害現場にはこわれた建物や火災，しん水など，多くの危険が存在しています。災害時は被災(ひさい)者の早期発見と救護(きゅうご)が求められますが，人が立ち入ることは簡単ではありません。そのため，近年はそのような状きょうでも救助や捜索(そうさく)を行うことができるレスキューロボットが開発されています。レスキューロボットには，動物のしくみや行動が参考にされているものもあります。そのようなレスキューロボットを見ている 3 人の会話を読んで，下の各問いに答えなさい。

ひばり　あんなせまいところにも入っていけるんだね。

すずめ　でも中は真っ暗だよ。どうやって人を見つけるのかな。

ひばり　赤外線カメラがついているんだって。

つばめ　見つかったら運び出せるのかな。

すずめ　前にアームがついているね。あの部分を使ってガレキを移動させるんだよ。

ひばり　あんなのではさまれたら痛そう。

つばめ　AI ではさむ力をコントロールしているそうだよ。

すずめ　カメラに写っているのが人かどうかも AI で判断するんだ。

(6) あるレスキューロボットは，ガレキをつかんだときにアームについているセンサーで，力の大きさを検知し，持ち上げ始めます。力の大きさを検知するのにかかる時間は 0.1 秒です。アームとコンピュータの間を情報が伝わるのに 0.2 秒，コンピュータで情報を処理して命令を出すまでに 0.2 秒，アームのモーターが動作してはさむ力を調節するのに 0.2 秒かかります。このレスキューロボットが，ガレキをつかんでから持ち上げ始めるまでの時間は何秒ですか。

(8) 次の文は，動物が体を動かす能力を持つ理由を説明したものです。文中の空らん（　①　）～（　③　）に入る適当なことばを答えなさい。

生物が活動をおこなうためにはエネルギーが必要です。植物では（　①　）のエネルギーを使って，水や二酸化炭素からデンプンなどの栄養分をつくる（　②　）をおこないます。

動物は（　②　）ができません。そのため，ほかの生物を食べることで栄養分を得ています。この栄養分を分解して，必要なエネルギーを取り出すはたらきを（　③　）といいます。（　③　）は動物だけでなく，植物もおこなっています。

リード文を読み，レスキューロボットが動物と比較してどのようなメリットがあるのかを考えていく問題です。

(6) 力を検知するのに 0.1 秒，アームからコンピュータの間を情報が伝わるのに 0.2 秒，命令を出すのに 0.2 秒，コンピュータからアームの間を情報が伝わるのに 0.2 秒，アームのはさむ力を調節するのに 0.2 秒の合計 0.9 秒を要することになります。

(8) ①では光や日光，②では光合成，③では呼吸と解答すれば正解です。しかし，③は最後の「動物だけでなく，植物もおこなっています。」という文章を読んでいないためか，「消化」という答案が目立ちました。最後まで文章を読んで，正しく解答することを心掛けましょう。

■対策への助言

基本的な事象・用語・実験手順などは問題集で十分に対応できます。しかし，解きなれない問題でも対応できるように，普段から「なぜそのように解くのか」を意識しながら学習してみてください。

■令和６年度 中学校入試

A 日程午前

社 会

2024 年度 中学入試A 日程 分析･社会科

■全体講評

社会科として5回目の中学入試となりました。問題講評にあたり、以下の3 点に留意しました。

① 受験者全体の平均点を60 点前後となるようにする。

（難問はないが、読解力を問う問題を多く出題する）

② まんべんなく全範囲から出題する。

③ 時事的な内容からも出題する。

■出題趣旨･講評

問題番号	項目	設問
1	（地理） 「路線価」について書かれた新聞記事を基に考える問題	近畿2府4県の「路線価」について書かれた新聞記事を基に，気候･世界遺産･農業･地形図の読図など基本的な内容について問う問題とともに，インバウンドの変化や文章の読み取りなど，時事問題や新傾向の問題も多く出題しました。
2	（歴史） 震災と人々の影響をテーマにした問題	関東大震災から100年が経ち、震災の歴史に関するレポートを読み、地震に関連する人物や時代について問う問題を出題しました。また、資料の読み取りや防災の日といった時事問題も出題しました。
3	（公民） 学園の探究ゼミをテーマにした公民分野について考える問題	SDGs、世界遺産、憲法、市政の各分野から知識を問う問題を出題しました。また、学園と関係の深い阪急電鉄の創始者に関する問題も出題しました。

■問題解説

大問1

⑺ 下線部②「訪日外国人観光客」について，下の表は訪日外国人観光客数の推移をあらわしています。X･Y･Zにあてはまる国の組合せとして，正しいものを次のア～カから1つ選び，記号で答えなさい。

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
X	7539	5585	488	19	1013
（台湾）	4757	4891	694	5	331
Y	1526	1724	219	20	324
ベトナム	389	495	153	27	284
（香港）	2208	2291	346	1	269
タイ	1132	1319	220	3	198
Z	8380	9594	1069	42	189
計	31192	31882	4116	246	3832

（単位（千人），『日本国勢図会2023/24』より作成）

ア	Xアメリカ	Y中国	Z韓国	イ	Xアメリカ	Y韓国	Z中国
ウ	X中国	Yアメリカ	Z韓国	エ	X中国	Y韓国	Zアメリカ
オ	X韓国	Yアメリカ	Z中国	カ	X韓国	Y中国	Zアメリカ

■解説

データを使った難しい問題です。新型コロナウィルスの流行前と後での観光客数の変化に着目し，コロナ以前の2018年度が8380千人と訪日客数が最も多く，2021年に41千人に激減し，2022年も189千人と回復しきれていないZがコロナの影響による出国制限が最も厳しかった中国，2022年度に1013千人と最も多いXが韓国，残るYがアメリカとなり，よって答えは　オ　となります。

大問2

(6)　下線部⑤について，関東大震災は様々な要因が重なって，その被害を大きくしたと考えられています。被害を大きくしたと考えられる要因として，誤っているものを次のア～エから1つ選び，記号で答えなさい。

ア　差別感情やデマの広まりにより，殺された人が多かったから。

イ　発生時刻が昼食の火の使用時と重なったから。

ウ　木造の建物が多かったから。

エ　戦争中のため，物資不足が深刻だったから。

■解説

関東大震災は1923年9月1日に発生しました。発生時刻は11時58分で、火を使用している家庭も多かったため、火災の被害が大きくなりました。また、江戸時代から続く木造の家屋が多かったことも被害を大きくしたと考えられています。地震後、差別感情やデマにより、関係のない多くの人々が殺されたこともわかっています。本問いは誤っているものを選ぶ問題のため、エが正解になります。地震発生時の1923年は、第一次世界大戦後の大戦景気を経て、より工業化が進んでいた頃でした。この時代に日本が戦争中だった事実はなく、間違いになります。

◇対策への助言

社会科という科目は、教科書にのっている内容だけを勉強するだけでは不十分です。身近な話題をもとに、一つの物事を様々な角度から捉えていく必要があります。そのためには、新聞やニュースから、関心を持った内容について、深く考えてみてください。新聞やTV のそばに、辞書や地図・地球儀を置き、気になったことはすぐに調べる習慣をつけていくと良いでしょう。

また、今年度から地理1題、歴史1題、公民1題と問題数を昨年度よりも減らした構成にしました。ただ単に知識を応えるのではなく、よく読み、持っている知識を使い考えて解いてほしい問題を増やしています。また、データや文章の読み取りも大切です。暗記するだけではなく、情報を処理する応用力など総合的な力をつけて欲しいと考えています。

■令和６年度 中学校入試

A 日程午後

算 数

令和 6(2024)年度　中学入試 A 日程午後分析・算数

■全体講評

出題形式は例年と同様である。小学校で学習してきた内容について，基礎力を確認する問題から柔軟な思考力・発想力を要求する問題まで幅広く出題した。また，思考力・発想力を要求する問題では，問題文を読んで，情報を整理する力，補助線や線分図を利用して問題を分析する力，会話文から筆算のしくみを理解する力を図る問題を出した。

四則計算・頻出の解法を用いる問題については正答率が高く、よく練習して定着していることがうかがえた。その反面，情報を整理する力，補助線や線分図を利用して問題を分析する力，会話文から筆算の仕組みを理解する力など考える力を必要とする問題の正答率が低かった。

■出題趣旨

1．整数の四則計算を２問，小数と分数が混在している四則計算を２問出題した。四則計算の工夫，小数の除法の仕方，帯分数の乗法、除法ができるかを試す問題。

2．基本から標準レベルの文章題。(4)は平面図形の問題で，補助線を引き，平行線間の比から線分の比を求める。また，高さが同じ三角形の面積比を底辺の比から求める問題。
(5)は入館したおとな，イルカショーを観たおとな，イルカショーを観たこども,入館者全体を比で表していくことで解ける問題である。ともに必要な図を書いて考える力を図った。

3．会話文を読んで，問題文の意味を理解する力および「工夫した筆算」の仕組みを理解する力，さらに算数的表現力を見た。

4．線分図を書いて，情報を整理する力を見た。また，各小問で問われていることはどのようなことを考えたら，正解にたどり着くのかを考える力を問うた。

5．立方体でも直方体でもなく，トイレットペーパー型の立体をくっつけたり，積んだりしたときの外から見える部分（注釈付き）を考える問題。外から見える部分がどの部分かを考えることができるか，またその部分を求めるのに計算の工夫ができるかを見た問題。

■対策への助言

難しい問題の解き方を単に暗記するのではなく，なぜそのように解くのかを考えることが大切である。日頃から自分で必要な図を書いて考えるようにしていきたい。問題のレベルは基本問題，標準問題なので，それらの問題を自分で考え，解けるようにしていこう。少し考えてわからないから，答えを見るのではなく，時間をかけて考えていけばいつかヒントにぶつかる。粘り強い学習が求められる。

難しい問題の解法を単に知識として知っていても様々な問題を解く力はつきません。問題をじっくりと考えることで，様々な問題を解決していく力がつきます。

■問題分析

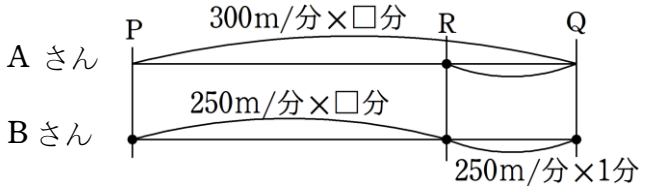
A，B，Cの3人はあるマラソン大会に参加しました。そのコースはP地点をスタートしてQ地点で折り返し，同じ道を通って再びP地点に戻ってゴールするものでした。Aさんは1500 mを5分で，Bさんは1500 mを6分で走ります。ただし，3人の走る速さは常に一定です。さて，マラソン大会が始まり，A, B, Cの3人はP地点を同時にスタートしました。Bさんは，Q地点を折り返してきたAさんとすれちがってから1分後にQ地点を折り返し，その1分後にCさんとすれちがったといいます。

(1)　スタートしてから1分後にAさんとBさんの差は何mになっていますか。
(2)　PQ間の距離は何mですか。
(3)　CさんはAさんがゴールしてから何分何秒後にゴールしますか。

考え方と解き方

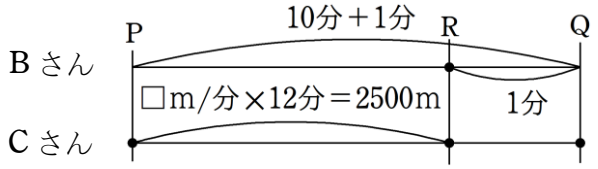
(1)　Aさんは1500 mを5分で走るから，速さは1500 ÷ 5 ＝300 m/分で走る。
Bさんは1500 mを6分で走るから，速さは1500 ÷ 6 ＝250 m/分で走る。
したがって，1分後には300 − 250 ＝ 50 mの差がついていることになる。

(2)



Bさんが Aさんとすれちがった地点をRとすると，Bさんが PからRに行く間に Aさんは PからRを通って，Qまで行き，さらにQからRまで戻ってくるので，その差はRQの2倍の距離分ついている。Bさんは RQ間を1分で走ったので，RQの距離は250 × 1 ＝ 250mである。したがって，すれちがった地点で Aさんと Bさんは250 × 2 ＝ 500 mの差がついていることになる。
Aさんと Bさんは1分間に50 mの差がつくので，500 m差がつくのにかかる時間は，500÷50＝10分となる。したがって，PRの距離は Bさんが10分かけて走った距離だから，250×10＝2500 mとなる。よって，PQ間の距離は PRの距離とRQの距離の和で，2500＋250 ＝2750 mとなる。

(3)



Qを折り返した Bさんは R地点で Cさんとすれちがうので，Cさんは PRの2500 mを10 ＋ 1 ＋ 1 ＝ 12分で走ったことになるから，その速さは
$2500 \div 12 = \frac{625}{3}$ m/分　したがって，マラソンの距離2750 × 2 ＝5500 mを
$5500 \div \frac{625}{3} = \frac{132}{5} = 26\frac{2}{5}$ 分でゴールする。一方，Aさんは5500 mを300 m/分で走ったことになるから，$5500 \div 300 = \frac{55}{3} = 18\frac{1}{3}$ 分でゴールする。
したがって，$26\frac{2}{5} - 18\frac{1}{3} = 8\frac{1}{15}$ 分の差ができる。$\frac{1}{15}$ 分＝ 60 × $\frac{1}{15}$ ＝ 4秒なので，Cさんは Aさんがゴールしてから8分4秒後にゴールする

■令和６年度 中学校入試

A 日程午後

国 語

2024年度　中学入試A日程午後分析・国語

■全体講評

大問１【小説】あさのあつこ『みどり色の記憶』から出題。

高校受験を控えた主人公が、友人から刺激を受けたり、幼いころの体験を思い出したりする中で、自分の意志で自分の未来を決める勇気を持つようになる話。文章上の表記や内容に難しい部分はなく、受験生にとっては共感できる部分もあり、読みやすかったと思われる。

大問２【評論】養老孟司『ものがわかるということ』から出題。

実体を脳で感覚的にとらえようとする「脳化」が進む現代の傾向と、それでもなお身体を切り離せないのが人間であるという現実を、AI と人間を比較しつつ具体例を挙げて述べた文章。デジタル化が進むことで可能になったことがある一方、身体を使ってすることを軽視しがちな傾向に警鐘を鳴らし、本当に必要なものは実際に身体を使ってこそ見えてくるという主張が読み取れる。一見、それぞれ違う内容を述べているように見える２つの文章に共通する筆者の考え方を読み取ることが難しかったようである。

■出題趣旨

大問１【小説】

自分自身の進路について前向きになれずにいる主人公・千穂の心の変化を、背景や理由などとともに正確に読み取れるかを問うた。他の登場人物とのやりとりや情景描写などを手がかりに、主人公の変化のきっかけを読み取ることが求められる。また、本文及び選択肢の正しい読解のためには慣用句も含め、豊かな語彙力が必要であることは言うまでもない。

大問２【評論】

同じ筆者による文章を、【Ⅰ】と【Ⅱ】に分けて出題した。提示された具体例の意図を理解し、２つの文章に共通する主張を読み取れるかを問うた。それぞれの文章における各パーツの読解を正確に進めながら、そのパーツごとの読解にとどまらず、この２つの文章を通して、最終的に筆者が何を問題としているかを読み取れるかどうかが重要である。２つの文章に共通するキーワードを軸に、筆者の主張に迫ってもらいたい。

■対策への助言

物語的文章では、登場人物の成長をテーマとするものが多い。出来事と人物の関係、登場人物同士の関係、情景描写と心情の関連性などを複合的に押さえ、心情の変化を正確に読み取ってほしい。特に、直接的に心情が書かれていない部分について、人物の周りで起こっている出来事や情景を丁寧に読み取ることが小説読解の肝となる。

説明的文章では、基本的な解法として、傍線部付近の接続詞や指示語に注目し、前後の内容から答えを探すことはもちろん大切である。一方で、取り上げられた具体例の役割・意図を、本文全体の主題に関連付けて読み取ることを忘れないようにしなければならない。その読み取りを丁寧に積み重ねることが、本文全体の主題を正確に理解することにつながる。

また、物語的文章・説明的文章ともに、複数の文章を関連付けて読み取る練習や、本文中に述べられた情報をわかりやすく表にまとめる練習も、日ごろから続けてみてほしい。

語彙の問題は、普段の生活ではあまり見かけない、受験生にとっては耳なじみのないようなものが出題されることが多い。慣用句の理解は文章読解に欠かせないものであるという認識のもと、確実に学習してほしい。また、漢字が正しく書けるようになることは、単に書き取りの問題に対応するためというより、言葉の意味を理解する、つまり文章を読み取る上で非常に重要な学習である。漢字の部首や単語の構成を意識して、「書く」漢字学習を大事にしてもらいたい。

■問題分析

大問２の評論文では、書き抜きの問題の正答率は高かったが、記述問題及び答えの根拠が本文の広範囲にわたる問題に苦労したようである。

問三　―――線部②「『これは正しい』という科学者は信用できません」とありますが、筆者がこのように言う理由を、本文のことばを使って解答らんに合うように四十五字以内で説明しなさい。（　、　。「　」は字数に数えます。）

まず、解答らんが「科学は、」から始まっていることから、「科学」の特性を筆者がどのように考えているかを押さえたうえで答えるという、「解答の方向性」が決まる。そうすると、傍線部の直前に「科学なんて……」とあるので、この部分を軸に答えればいいことはわかると思うが、この部分だけでは説明不足である。どうして「科学なんて『こういう前提で、こういう結論にしておきましょう』と言っている」にすぎないと筆者は考えているのか。このことについて、もう一つ前の段落に「世界はそれだけ複雑にできている」とあり、いくら調べてもキリがないほど「複雑」な世界を相手にしているのが「科学」であり、一つの「前提」で「結論」を決めているにすぎず、「これは正しい」と言い切ることはできないのである。

正解例

（科学は、）複雑な世界を相手に一つの前提で結論を決めているにすぎず、答えを断定することはできない（から。）

問十一　文章【Ⅰ】・【Ⅱ】に共通する考え方として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

文章【Ⅰ】では、科学は世界のすべてを説明できるものではないと述べたうえで、科学技術の成果であるデジタル機器が発展する一方で、高性能な顕微鏡があっても生きた虫を採集できなければ観察はできないことや、標本の管理に手間を省くことはできないことが述べられている。また、文章【Ⅱ】ではコンピュータと人間の特性を述べたうえで、いかにデータ化・デジタル化が進んでも身体がなければできないことが残ると述べている。また最後には、自然を相手にした不自由な暮らしをすることを推奨するとともに、デジタルツールに掲載された情報が自分のすべてであるかのように思ってしまう現代人の不安を挙げている。

つまり、２つの文章に共通するのは、「脳」の機能や意識の世界＝デジタル・コンピュータ重視の現代において、身体を使った行為の価値を見直そうと言っているのである。

正解は、エ。

■令和６年度 中学校入試

B 日程

算 数

2024年度　中学入試B日程　分析・算数

■全体講評

出題形式や難易度については，基本的には例年通りです。受験生のみなさんが問題集や過去問等でよく目にするタイプの問題の正答率はとても高かったです。よく勉強・練習してこられた成果だと思います。

ただし，今年度も「受験生が見たことのないタイプの問題」や「深い思考力を必要とする問題」の正答率が他に比べると低かったです。特に第4問と第5問については，問題文が長く問題の規則や意味を正確に捉える必要がありましたが，それができていない受験生が多かったように思います。問題文をよく読んで，自分で図や表を書いたりしてよく考え，問題の意味をきちんと捉えてほしいと思います。

■出題主旨

1. 基本から標準レベルの計算力を問う問題で，計算力が定着しているかを試す問題。計算の順序に注意の必要な計算，分数・小数の混ざった計算，カッコを含む式の計算等が正確にできるかを問うた。また(1)と(2)については，やみくもに計算せずに，式の特徴を捉えて計算を工夫することで，より短時間で答えが出せた。
2. 基本から標準レベルの文章題である。難しい考え方は不要で，問われていることをきちんと把握できるかを問うた。(3)ついては，他の問題よりも，日常生活に関わりがあるテーマであった。この$\boxed{\text{カ}}$のような問題はあまり問題集等で見たことがなかったと思うが，公式等は不要で地道に考えれば答えを出すことができる。こういう問題がぜひ解けるようになってほしい。
3. 面積・体積・高さに関する問題である。受験生はどこかでやったことのあるタイプの問題であろう。練習の成果を見た。
4. グラフから状況を読み取る問題である。2人の距離がグラフで表される問題は入試でよく見かけるが，途中でゴンドラに乗ったり乗らなかったりするというのは，受験生にとっておそらく初見であっただろう。まずは規則の把握（ゴンドラにいつ乗っていつ乗らないか等）がきちんとできるかを問うた。(4)については，グラフから読み取った情報を，2人の動きのグラフとして別の形で表現できるかを問うた。
5. 2人の会話から問題の規則や意味を読み取って，正確に計算できるかを問うた。すごろくの問題は珍しくないが，今回のような複雑な経路のすごろくの問題はあまり見ないと思う。こういった初見の問題に対しても，地道にさいころの目の出方を数えることはできてほしい。ただし，ゴールできるときの目の和を捉えるためには，工夫して調べる力がないと試験時間が足りなくなる。また，ある目の和に対するサイコロの目の出方（例えば，2個のさいころをふって目の和が4になる出方は(1,3),(2,2),(3,1)の3通りある）ことを捉える力も必要であったが，小学生には少し難しかったかもしれない。

■対策への助言

算数の学習では，まずは正確な計算力をつけることが不可欠です。その上で公式などの基礎知識を身につけ，たくさんの問題に取り組んで算数の力をつけていってください。

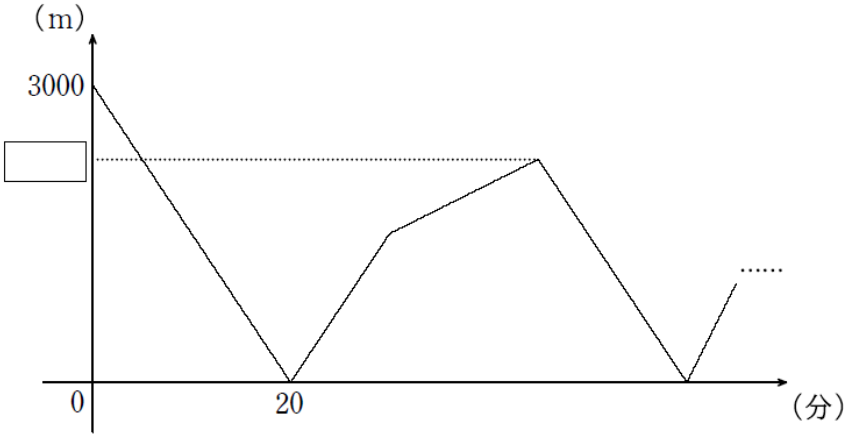
問題に取り組むときに気をつけてほしいことは，解法パターンを覚えてそれに当てはめる練習に終始しない，ということです。見たことのない問題に対しても，試行錯誤して正解を導く力を養ってほしいと思います。すぐには解き方が分からない問題をじっくり考えること，正解が出せた場合であっても「なぜその考え方で答えが出るのか」根拠をきちんと考えること，それらを大事にしてください。

■問題分析

4.　花子さん，太郎さんの２人が山頂のＰ地点とふもとのＱ地点を何往復かします。花子さんはＰ地点から，太郎さんはＱ地点から，２人同時に出発し，２人の上りの速さは同じ，下りの速さも同じで，上りの速さと下りの速さの比は１：２です。また，Ｐ地点とＱ地点の中間地点からゴンドラが道路に沿って30分おきにＰ地点へ上っており，その速さは２人の上りの速さの２倍です。ただし，２人はＰ地点，Ｑ地点において，休むことなく折り返すものとします。

２人は上りにおいて，ちょうどゴンドラが発車する時刻に中間地点に来たときにだけゴンドラに乗り，Ｐ地点でゴンドラを降ります。

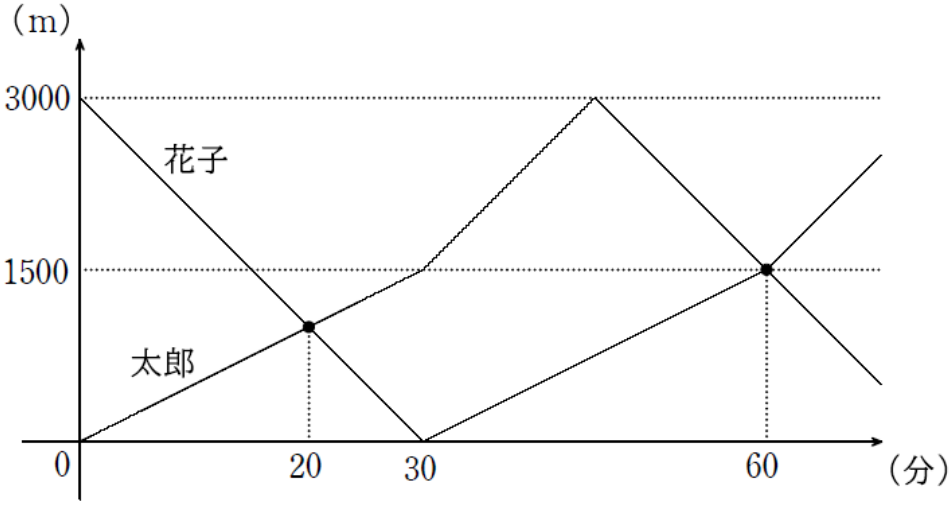
下の図は，２人の間の距離（きょり）と出発してからの時間の関係を表したグラフです。



(4) ２人が４回目にすれちがうのは出発してから何分後ですか。

【考え方】

(4)を正解した受験生はごく少数でした。グラフから読み取った情報を，下図のように２人の動きのグラフとして別の形で表現しないと正解にたどり着くことは難しかったと思います。



ただし，それに加えてゴンドラが30分おきに発車していることを見落とすと不正解となります。太郎さんは105分のときに中間地点に上ってきますが，そこではゴンドラには乗りません。

■令和６年度 中学校入試

B 日程

国 語

令和6（2024）年度中学入試B日程分析・国語

■全体講評

文学的文章と説明的文章の２題を出題した。

説明的文章は標準的な長さであった。一方、文学的文章はやや短めであったが、同じ場面をそれぞれの登場人物の視点で書いた文章を併記した。全体として、そこまで難易度は高くなかったとは思うが、記号問題で苦戦しているようであった。傍線部の言葉を読み解くことで解答に結び付く問題だけではなく、傍線部を含めて、前後やそこまでの文章の流れを理解して解答する必要があった。また、慣用的な表現を問う問題についても、その言葉の意味から本文の内容を理解して選択する必要があった。記号問題全般について短絡的な解答が目立った。記述問題は、３０～４５字以内で考えてまとめる問題を2問出題した。必要な言葉・表現を使って解答できていた。

漢字は別立てにせず、本文の中から11 問を出題した。全体的によく勉強しているように感じたが、丁寧さに欠ける解答が目立った。送り仮名も含めて書く問題であったので、メールなどの予測変換に慣れていると戸惑ったのではないだろうか。日頃から言葉を丁寧に「読み・書く」練習をして、語彙を少しずつ増やしていってほしい。

■問題趣旨

大問1 文学的文章 朝比奈あすか『君たちは今が 世界(すべて)世界(すべて)』より出題

クラスで少し浮いた存在である二人（宝田ほのか、武市陽太）が、偶然知った「折り紙教室」に参加することになった。「ほのか」は得意なものも夢中になれるものも何もない自分に気持ちが沈んでいた。対して「陽太」は「ほのか」が普段と違って自信をなくしている様子に驚き、「ほのか」を心から励まそうとしていた。そのような「陽太」の思いに気づいた「ほのか」がその思いに応えようとしているところと、そんな「ほのか」の様子を見て心が晴れ晴れとする「陽太」の心情の変化をしっかり読み取ってほしい。

大問2 説明的文章 佐倉統/古田ゆかり 『おはようからおやすみまでの科学』より出題

科学技術が発展した現代において、その技術の核心部分を理解することなくただ利用している私たちの姿勢を批判し、技術がもっている能力や背景について知る努力を積極的にすることが必要である。また、そのことで科学技術と私たちの関係はもっと楽しく、広がりのあるものになる。初版が2006年と少し古いが、筆者の意見は現代の科学技術に対する私たちの姿勢を考える上で、今でも十分通用する内容である。意見展開と具体例の関係や、比喩的表現を理解することが重要である。

漢字の問題については送り仮名を含めて記述する問題であった。普段目にすることが少ない漢字だと思われる、「縮こまら」や「芽生え」の正答率が低かった。

■対策への助言

説明的文章は、筆者の意見展開を読み取るために、特に指示語や文頭の接続詞に注意を払うこと。さらに、具体例から筆者の意図を読み取り、文章全体における筆者の主張を正確に捉えていこう。文学的文章は「いつ・どこで・だれが・何を・している」ということを丁寧に追いかけながら読むこと。また、心情は行動や景色にも表れるので、場面ごとの背景を丁寧につかむことが必要である。記述問題について、設問が何を解いているのかを確実につかむことが大切である。その中で、本文から根拠を探して丁寧にまとめることを意識して練習すること。速読と精読を意識してさまざまな文章を読むことで、読解力が上がるはずだ。そうする中で、、まとまった長さの文章読解に慣れていってほしい。

■令和６年度 中学校入試

B 日程

理 科

2024年度　中学入試B日程　分析・理科

■全体講評

例年通り各分野のバランスを考えて，生物，物理，化学，地学の４分野から均等配点で出題しました。難易度や問題数も各分野で偏ることがないようにしましたが，正当率は物理，地学が 60%以下，生物，化学は 70%以上と分かれた感じです。問題は基本的な知識問題だけでなく，実験内容の理解とその結果の整理，与えられた文章・情報の正しい理解など，科学を扱ううえで必要とされる基礎力を問う問題を中心に作問しています。

いずれの分野の問題においても，受験生のみなさんが問題集などでよく目にする形式の問題の正答率は非常に高く，しっかりと練習を積んできていることが感じられました。その一方，問題文をしっかり読解する必要のある選択問題や計算問題に，苦しんでいた様子で，正答率にばらつきのある結果となりました。理科用語の暗記や現象に関する理解だけでなく，実験問題や応用読解の問題を様々な切り口から考察する力もつけていきましょう。

■出題趣旨・講評

問題番号	項　目	設　　問
1	火山灰層を含む地層と化石	ルートマップの A～D の４地点の柱状図の中の化石の分類や名称，化石生物の過去の生息環境，キーベッド(鍵層)を用いた４地点の地層の関係を問う問題や火山灰の特徴と鉱物の問題を出題しました。
2	ものの燃焼と重さの変化(比)	ものが燃える条件，燃焼の３要素について文章を読んで，解答する問題とマグネシウムリボンの燃焼における重さの変化の表から表の穴埋め計算問題，燃焼後の重さからリボンの燃焼の割合を計算する問題を出題しました。
3	タンポポの特長と春，冬の植物	植物研究部部長と新入部員の会話文から必要なことを読み取り答える形式の問題です。まず，春の花と冬の植物の特長を聞く問題，次にタンポポの弱みと長所(他の植物と比較して)を問う問題，虫媒花についてと虫の種類を聞く問題，最後に植物の成長とヤギによる除草による計算問題を出題しました。
4	熱の移動と熱平衡による温度変化	誘導形式で熱の説明から，熱の移動，熱量保存の説明文をまず読み込んで，以下の問題を解く形式で作成しました。 まず温度変化のグラフ問題，次に同じ材質で異なる重さの高温物体と低温物体を接触させたときの温度変化を問う問題，同様に初めの温度と最終温度から物体の重さの比を計算させる問題，続いて同じ質量で材質の異なる物体を接触させたときの温度変化，比熱から温度を計算する問題，３ 種類の材質の異なる物体(質量は同じ)を接触したときの初めの温度，最終温度から比熱の比を計算する問題を出題しました。

■問題分析

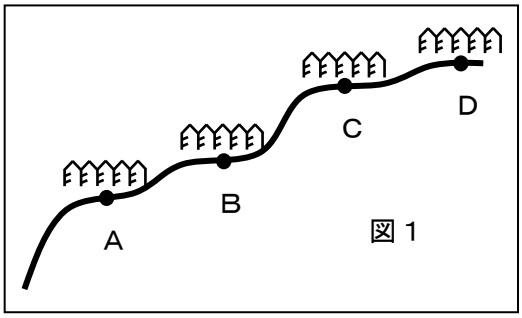


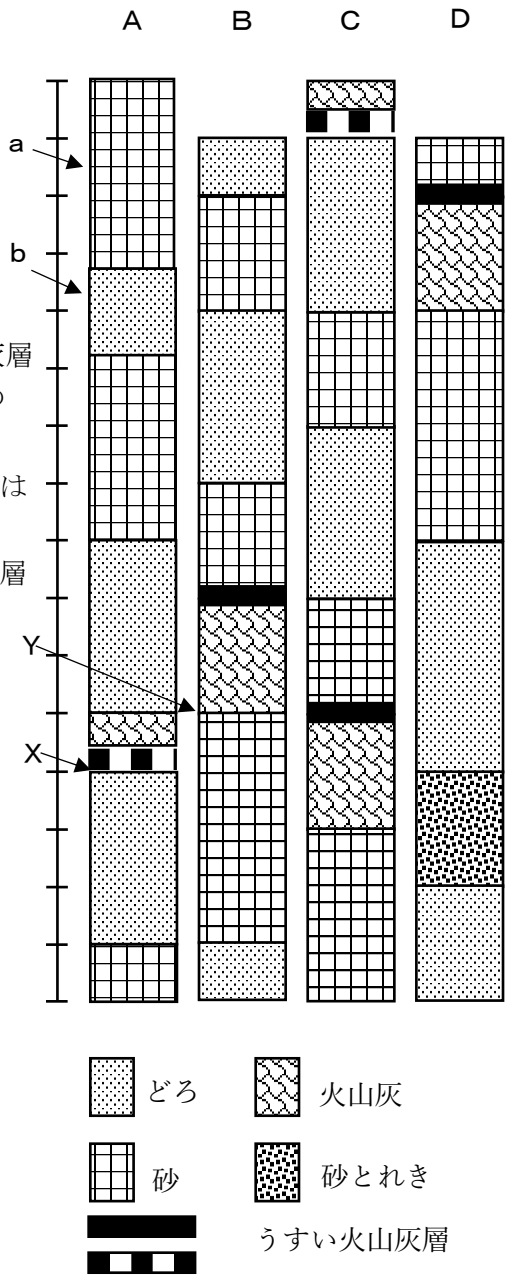
図１

図中の ■■■■ と ■□■□■ はうすい火山灰層で，それぞれ同じ時にふん出したもので地層のつもった順番を調べるのに役立つものです。

(11)　Ａ～Ｄの中で，最も古い層をふくむものはどれですか。記号で答えなさい。

(12)　Ａの火山灰の層の底面ＸとＢの火山灰の層の底面Ｙの高さの差は何ｍですか。

【解説】Ｃにうすい火山灰層が２枚入っているので太線の火山灰層の方が古いと分かります。よって(11)の解答はＤが最も古い地層を含みます。(12)の問題もＣの柱状図で見て，ＸとＹの高低差は 12 マスの差ですので 0.5 m×12=6.0 m となります。



■対策への助言

基本的な事象・用語・実験手順などを問題集で覚えるだけでなく，データや誘導文を読解することから思考力を問うような選択問題，計算問題の対策を立てて勉強する必要があると思います。特に，なぜそうなるのか常に深く考察して勉強して理解を深めてください。

■令和６年度　中学校入試

B 日程

英 語

2024年度　中学入試　B日程　英語　講評

大問１　長文読解　得点率69%

　文章を読んで、その文章を表す１語のキーワードを考える問題や、段落の内容を細かく、正確に理解しているかを問う問題の得点率が相対的に下がった。一見すると「海」をテーマにした文章であるために、そのキーワードは「ocean」が正解のように思える。しかし同時に、「私たちが普段の生活の中で使用するもの」という文脈にもなじむものとして、「水(water)」を答えさせる問題でもあり、その文脈がある段落を見落とす、読み間違うといった失点があった。

大問２　文法問題　得点率78%

　文法についても、難易度としては高校入試問題や高校英文法の基本レベルは理解しているように評価できる。ただし、その中で make の受動態がとる前置詞の使い分けや形式主語構文の意味上の主語として、for ではなく of を使うときについての理解度は相対的に低かった。

大問３　同意文への言い換え問題　得点率62%

　大問２と同じ文法レベルではあるが、こちらは記号選択ではなく筆記問題であったということもあり、大問２に比べて得点率が下がった。現在分詞の形容詞的用法を、関係代名詞を使って書き換える問題や比較構文において原級、比較級、最上級を書き換える問題は、英語が得意な受験生といえども、まだまだ日々の授業の中で鍛錬する必要性が感じられた。

大問４　英作文　得点率52.1%

　この春休みに家族で旅行に行くなら国内か海外、どちらがいいかを英語で記述する問題である。なじみやすい話題であるため、十分な量の英文を書く力は備わっていた。７割以上の得点することができた受験生は、単数形や複数形、動詞の時制などに細かいミスはあるものの、すらすらと読める英文を書くことができるのに対し、それを下回る得点の受験生は、そのようなミスやスペルミスが多すぎたり、そもそも自分の考えを書く練習が必要だったりするレベルであったと評価できる。

面接　平均点29.1点（40点満点）

　挨拶、音読、与えられた英文の内容に関する質問、英文の内容に関連した身近な話題に関する質問という構成で一人５分ほどの面接であった。全体のレベルとしては質問の内容も理解することができており、それに対する質問にも意味のわかる英文で答えてくれた。ただし、細かい文法のミスが目立つ受験生が多く、これからの学習の中で正確に理解し、使える力を育むとともに、会話の中でも正確な英文で発話する練習を重ねる必要がある。